

## ジャンボかぼちゃの聖地 「シンデレラ夢」祭り

森 智基 (もり ともし)  
「シンデレラ夢」実行委員会事務局長

オホーツク管内のほぼ中央に位置する佐呂間町は、南に北見市、北一帯はサロマ湖に面しており、ホタテ、カキなどの漁業が盛んですが、特産品であるかぼちゃは日本有数の生産量を誇ります。そのかぼちゃを題材とした「シンデレラ夢」祭りの実行委員会の森さんにお話を伺いました。

### 《まち全体がかぼちゃ色に染まる2日間》

佐呂間町の子どもたちに心に残るインパクトのあるお祭りを体験させたいとの思いで始まったこのお祭りは、1988年に、地域の農業者、漁業者、会社員など様々な業種の若者が集まった「かぼちゃ倶楽部」という団体から実行委員会が立ち上りました。

会員は総勢100名で、お祭りは毎年9月の第1土曜日から2日間開催され、30年以上の歴史があります。

かぼちゃといえばハロウィンのお化けを連想しますが、このお祭りは誰もが知っているシンデレラのかぼちゃの馬車をイメージし、魔法をかけられ夢のような体験をコンセプトにした「シンデレラ夢」というロマンティックなネーミングのお祭りです。

まずは、実行委員会が自ら育てたアトランティックジャイアントというジャンボかぼちゃで作ったランタ



夢パレードの様子「シンデレラ夢2019」



ンを沿道などに飾り、かぼちゃ色の旗を立て町中をかぼちゃ色に染め雰囲気盛り上げます。

土曜日の前夜祭、手作りのかぼちゃの馬車を先頭に、様々な衣装を身にまとった町民達が練り歩く仮装パレードから始まり、約800発の花火を10分程で打ち上げる迫力満点の花火大会でお祭りを一気に盛り上げ、その後オールディーズナンバーによる舞踏会へと続きます。

2日目はかぼちゃが主役となり、世界のかぼちゃ博覧会、かぼちゃ重量コンテスト、世界最大級のビンゴマシンを使ったビンゴ大会などのイベントが行われ、大道芸人のパフォーマンスは、毎年少しずつ内容を変え、見る人も参加する人も楽しめる内容になっています。

また、実行委員会では、全国の希望者にジャンボかぼちゃの種をプレゼントするなどの活動も行っており、ジャンボかぼちゃの聖地「さろま」のPRを行っています。

### 《お祭りの継続を目指して》

近年の新型コロナウイルスのまん延で、2年間お祭りの中止が余儀なくされました。

また、30年間の歴史あるお祭りならではのマンネリ化の懸念や、実行委員会の世代間での感覚の違いによる温度差など多少の壁はありますが、コロナ禍によって、運営する側、参加する側のモチベーションが下がらないよう配慮し、このインパクトのあるお祭りを待ち望んでいる子どもたちのために、来年に向けて準備を進めています。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。